

2017 年度春の大セミナー 5th C⁺15 番テーブル総評

文責：柴（フェリス 4 年）

【テーブルメンバーと順位】

- 1 位 金子（青学 3）
- 2 位 山村（早稲田 2）
- 3 位 三浦（立教 2）
- 4 位 生沼（立教 3）
- 5 位 篠原（成蹊 2）
- 6 位 篠永（上智 2）
- 7 位 大垣（東北学院 2）



【目次】

- 1. 議論の流れ・総評
- 2. 選定理由と個人の総評
- 3. 最後に

1. 議論の流れ・総評

《Narrowing》

4 人が OP に立候補し、篠原(成蹊 2)を除き、脳死患者の臓器提供を強制するといった春セミ期にポピュラーなオピニオンシートを提示した。篠原のオピシは、死刑囚の臓器を患者に強制提供するといったものであった。しかし至って混乱を招くこともなく、各々のオピシでのコンパリゾン idea を中心に質問がなされ、金子(青学 3)がオピニオンプレゼンターに選ばれる。

《ASQ・PLAN》

ASQ は、AD の定義や TG の狭義に関する基本的な Q が続く中、2 つのダウトがテーブルに提示された。

1 つ目は、大垣(東北学院 2)による“政策を取ることでより脳死患者の家族の意思が尊重されなくなってしまう”といったダウト、又は意見表示であった。そのような意見を提示したもの、発言の意図がテーブルに浸透せず停滞を招いたが、金子の“DA として話すことができる”という発言により収束した。

2つ目は、マンデートで出された、生沼(立教3)の Q による“マンデートにドナーコーディネーター(増やす等の)に関する策はあるのか”から提示されたものであった。しかし、生沼の発言の意図が伝わらず、金子を中心に発言の意図に関する質問がなされたがなかなか浸透せず、最終的には金子がドナーコーディネーターのタスクが増える事に関して DA で話すことを提案し、収束。

《Solution》

Solution では、Praca で 2 つ、Worka で 1 つのアーギュメントが展開された。

【山村の主張】

山村(早稲田2)の主張は、日本政府が脳死患者の意思を表示する権利を奪うことにより、憲法の3つのうち1つが守られなくなるという反論であった。

金子の C により山村の idea は、日本政府が無罪の人の命を奪うこと→憲法違反→×power to t/p である事まで掘り下げ、その場合にすべてのケースで憲法違反かどうか論点であるとテーブルに浸透させた。

これにより、三浦(立教2)・金子・生沼の3人が例外を提示する事により反論を試みたが、受け入れられず、最終的には生沼が出した例外をサポートする形で金子が、沖縄の米軍基地問題の例を使って憲法違反でないと主張し、認めた。DA で話すことになり、DA 後どのように話すかで多少議論が停滞したものの、ここでの議論は収束したため、篠原の idea に移行。

【篠原の主張】

篠原(成蹊2)の idea は残念ながら、検証に至らなかった。

検証に至る前、金子が Praca で話すべきことが、技術的に政策を実行することが可能であるかどうかを話すべきであり、idea がその話についてなのか否か Q をすることによって、篠原が自ら DA で話すことを提示し、オミット。(あまり望ましくなかったであろう)

【篠永の主張】(Workability)

篠永(上智2)の主張は、政策を取ることで医者が臓器オペレーションを患者の意思なしにやらないといけなくなる為、最終的にはそのような意志の元、医者の数が少なくなり臓器の数が減るといった idea であった。山村(早稲田2)が、意志の無視を拒否して臓器提供をやらない医者が全てか否か(All or Some)聞き出し、Some であった為 Workability は認め、DA で話すことを提案し、意図が組めているかどうかで多少停滞した部分もあったが、金子の議論したい内容

が DA で話せるかどうかの C により話せることを明確にし、DA で話すことに。→AD 立証。

《Comparison》

三浦(立教2)の death を QL においた B/D が DA として選ばれ、コンパリゾンへ。金子がだした idea は、Evidence を元に、患者(AD)の方が多いから QT の面で立つというものであった。それに対し、山村(早稲田2)が反論を示すものの、検証に至らず、議論終了。

《議論総評》

テーブル全体としての雰囲気はとても良いもので、全員が議論に参加しようとする姿勢のあるテーブルであった。ただ多くのダウトや idea を検証したのにも関わらず、結局は各々の話を Comparison で話せず、結論をだすことができなかった。原因として、多くの idea やダウトに関して様々な面で時間をかけて過ぎてしまったことであると考ええる。このテーブルの課題は、

「発言者の意図・発言の内容を正確におとす、明確にする」ことである。

全ての Idea に対し、「」に関する質問があったものの、明確にするまでに時間をかけてしまった。

→発言者は自分の意図(Doubt ならば、どのような Doubt か/ここで何を話すのか/いつダウトはうまれるのか。Idea ならば、ここで何を議論するのか/ここで話すべきネセ/exception を集めることによって検証する等、検証方法)を提示したうえで、意見提示をするべきであり、

周りは“今の議論で必要なこと、確認すべきこと”を明確に持ち、テーブルに落としていくべきであった。

非常に多様な視点で意見表示があったからこそ、結論にもっていくことができず残念ではあったが、結論に結びつけられるような議論をこれから意識して、理想の議論ができるよう頑張ってほしい。

2. 選定理由と個人の総評

1 位 金子(青学3)

OPとしての土台提示、全体を通してのコンスタントな介入、議論を次に進めるサジェスション、ideaに対する意見提示を評価し、一位とした。しかし、相手の意図・発言を汲み取るのに時間がかかったうえ、汲めずにSをだしてしまい停滞を招いてしまった場面が多かった。相手によってはSなどのアプローチ方法を変える柔軟性がやや欠けていた。どのように上手く相手の意図や発言を引き出せるのか、どのようなSであれば相手を説得し議論を正確に進めることができるのか、今後は是非こだわって頑張ってもらいたい。

とはいえ、テーブルになくてもならない存在であり、アッパーテーブルでも活躍できる力があると感じた。テーブルメンバーの意図を汲んだトリートと、早い介入の仕方をプレパし、斡旋で活躍することを期待している。

2 位 山村(早稲田2)

他者のideaに関する検証方法のサジェスション、そこそこの頻度でコンスタントに介入していたこと、ideaの提示を評価した。また、自分のideaの検証方法を提示し、議論されたことも大きく評価した。しかしideaに関しては、A/Cか否かを議論したいことは伝わったが、A/Cの先に何があるのかまで考える、もしくは正確に伝える必要があったであろう。結果的にideaをコンパリゾンで話すことが分かったが、コンパリゾンで話したいことの意図が伝わりきらず話したい事ができなかったように思えた。そこまで詰めることで、話の必要性や重要性を主張する理由付けとして機能し、より深い議論ができたのではないのでしょうか。

とはいえ、2年生ながら議論に積極的に参加する姿勢が見られ、今後の活躍が楽しみであると感じた。

早稲田には素晴らしいディスカスタントが沢山います。プレパにたくさん行き、いろんな事を吸収して行ってほしいと思います。頑張ってください。

3 位 三浦(立教2)

聞きやすいプレゼンテーションと落ち着いた介入、その場の話を補完するQC、DAの立証を評価した。しかし、QCに留まる介入が多く、テーブルを動かす発言ではなかった。また、山村のideaの際もCから入り、意見提示をしたが、“そこから何がしたいのか”までの説明が足りず、検証されずに

終わってしまっていた。今後は、S に関しても意見提示に関しても C からどのように持っていきたい方向にもっていくことができるのか意識し、プレパしてほしい。立教を引っ張っていく 1 人として今後飛躍することに期待しています。

4 位 生沼(立教 3)

全体を通して自分の意見を主張する場面が多かった。今後の課題としては、ゴールを明確にした上で介入することである。エクスプラは多かったが、浸透しない場面が多く、その際にテーブルメンバーがゴールを引き出す発言をしているのにも関わらず、内容面を説明してしまう場面が多かった。テーブルに今何が必要なのか把握し、自分の主張したいことがしっかりと伝わるよう意識してほしい。幹旋まであと数か月ですが、後悔のないよう全力でプレパしてみてください。

5 位 篠原(成蹊 2)

ユニークなオピシの提示と **idea** の提示を評価したが、介入が限定的であったため、5 位とした。**Idea** に関しては、時間がないとはいえ(またオプレのスタンスの為)、自ら非論理的に流すべきではない。もともと **praca** でだしているのだから、なぜ **praca** で話すべきなのか説明し、議論したうえで決めるべきである。

しかし、ユニークなオピシと一貫して持っていた意見から、議論に関して深く考えていると感じた。今後は、理想のディスカッションができるようより一層磨きをかけて頑張してほしい。成蹊大学の飛躍に期待しています。

6 位 篠永(上智 2)

Idea の提示を評価したが、介入が限定的であったため、6 位とした。今後の課題としては、**idea** 提示はその場でできるものであるが、それをどう結論に結びつけるのか逆算し、提示できるようになるだろう。それにより、他者への介入もできるようになるであろう。その流暢な英語を生かして頑張してほしい。

7位 大垣(東北学院2)

ASQでの意見提示やQを評価したが、介入が限定的であったためこの順位とした。自分なりの意見はもっているのですが、その意見をどのように提示し議論にもっていくかが今後の課題である。東北から関東まで来てディスカッションをするくらい意識が高いと思うので、来年は是非上のレベル目指してまた頑張ってもらいたい。

3. 最後に

春セミお疲れさまでした！長々と書いてしまいましたが、この総評が皆さんの成長の糧になれば嬉しいです。皆さん1人1人はポテンシャルをものすごく秘めていると感じたので、今後も是非頑張ってもらいたい。

3年生は後悔のないように頑張ってください。もし目標があるのならば、数か月でできる事を考え、全力で取り組んでみてください。2年生はこれからだと思います。特に今回のテーブルではみなさんのこれからの可能性を感じました。目標を持ち、楽しさも忘れずこれからも頑張ってください。

最後になりますが、これほど楽しそうにディスカッションをしていたテーブルはあまりなく、見るのができて光栄でした。何か質問等がありましたら下記まで。

LINE : sw_haru // 柴春希